

平成 29・30 年度（2017・2018 年度）  
からだづくり研究推進校 研究紀要

# 取り組みたい、チャレンジしたい、と 心も体も考動できる子どもを育てる環境づくり

～ 運動が好きになる環境（生活環境・体育の授業）づくりをめざして ～



平成 31 年（2019 年）3 月

豊中市立東豊中小学校

# 目 次

はじめに .....	1
I. からだづくり研究推進計画 .....	2
II. 2年間の取り組み .....	4
III. 校内研修 .....	6
・「なわとび運動・体ほぐし運動 運動の手引き」	豊中市教育委員会 藤原誠 山崎雅史
・「ドリルゲーム、なわとび運動」	
・「一から学ぶ体育の授業づくり」	筑波大学附属小学校 齋藤直人先生
・「マット運動」	
・「実技研修編」	筑波大学附属小学校 齋藤直人先生
・「とび箱運動」	
・「陸上運動」(ラダー・ミニハードル)	
IV. 公開授業・研究授業・示範授業 .....	20
・6年生「長なわ、マット運動」	
・4年生「からだづくり運動、ボール運動」、1年生「からだづくり運動、マット運動」	筑波大学附属小学校 齋藤直人先生
・1年生「マット運動、なわとび」	
・2、5年生「からだづくり運動、マット運動」	筑波大学附属小学校 齋藤直人先生
・3年生「ゴール型ボール運動」	
・6年生「ネット型ボール運動」	
・1年生「ネット型ボール運動」	
V. 体育指導年間計画 .....	33
あとがき .....	35

## はじめに

2025年、大阪で再び万博開催となりました。前回の千里で行われた万博の時代、豊中にも多くの空き地や竹藪があり、子ども達は自然に囲まれた生活を過ごしていました。竹藪でかくれんぼや鬼ごっこ、空き地では野球、サッカーなどよく走り回ったものでした。その後、高度経済成長の波により、次々と子どもたちの遊びの場が少なくなっていました。

心と体の健康は、明るく豊かな生活を日々営む上で大変重要で大切なものでしょう。

近年、社会環境の変化に伴い、外遊びの減少や日常生活の利便化が子どもたちの身体活動を減少させ、体力や運動能力に影響を与えていると言われていています。本校の児童も例外ではないと考えています。

このような時代の中、本校は豊中市教育委員会より「からだづくり研究推進校」の委託を受け、平成29・30年度(2017・2018年度)の2年間、研究を進めてきました。

昨今、体育科についても新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を進め、運動が苦手もしくは意欲的でない児童への指導のあり方にも配慮しつつ、全ての児童に運動やスポーツの多様な楽しみ方や心身の健康の保持増進が求められています。

このような基本理念のもと、本校の体育の授業づくり、からだづくりを通して運動やスポーツに親しむ資質・能力・調和のとれた子どもの体力向上を図るための指導法を習得し、教師の資質及び指導力の向上に取り組んできました。

体育の研究授業も活発となり、子どもたちが運動の特性を理解できるような合理的で効果的な指導方法の工夫を重ねたり、子どもの振り返りや話し合いを通したりすることで、運動を通じて子ども同士の集団を高めていくことができました。その結果、「とよなかなわとび大会」の高記録を残したり、府主催の「ジャンプアップ大会」に出場し、パフォーマンス部門では2年連続3位の栄冠を得ることができました。また、府の「EKIDEN大会」でも優秀な成績を残すことができました。教員や児童の運動に対する意識が向上した現れだと感じます。

また、具体的数値として全国体力・運動能力等調査の総合評価において、本校はこの数年いい結果を残してきました。最新の平成30年度のデータでは男女とも平均値のポイントを伸ばしており、男子においては3.5ポイント伸び、全国平均とほぼ同じ結果を得ました。(女子も1.4ポイント増加)この数字は調査対象児童が異なりますが、この2年間、教員の研究授業や3度におよぶ齋藤直人先生の公開授業による研修等、積み重ねてきた成果と考えることができそうです。

最後になりましたが、研究の機会を与えていただいた豊中市教育委員会に感謝を申し上げると同時に、本校の研究活動に多大なご指導、ご支援を賜りました筑波大学附属小学校の齋藤直人先生をはじめ、学校教育課保健体育係の主幹をはじめとする指導主事の先生方など多数の皆様にご心より厚くお礼を申し上げます。

平成31年(2019年)3月

豊中市立東豊中小学校  
校長 平島 健二

# I. からだづくり研究推進計画

豊中市立東豊中小学校

## 1. 研究主題

「取り組みたい、チャレンジしたい、と心も体も考動できる子どもを育てる環境づくり」  
～ 運動が好きになる環境（生活環境・体育の授業）づくりをめざして ～

心と体の健康は、明るく豊かな生活を日々営む上で大変重要で大切なものである。

ボールを使用できる公園の減少、ネットやゲームの普及、習いごとの増加など、今の子どもたちは様々な要因で運動する機会が減っている。それらが児童の体力や運動能力の低下につながっていると考えられるが、それは本校の児童にも当てはまると思われる。児童によっては、学校で休み時間に運動場で遊んだり、体育の時間に体を動かしたりすることが唯一の運動機会である場合もある。その数少ない運動機会を大切に、どんな運動にも「やってみたい！」と興味を持って意欲的に取り組み、「できた！」という達成感を味わい、それが次の「やってみたい！」を生む、その積み重ねを大切にし、運動が好きになる子どもを育てていきたい。また、単純な運動の繰り返しばかりにせず、多様な運動を計画的・継続的に行わせることで、考えて動くこと（＝考動）を大切にし、運動することの楽しさを味わわせたい。その考えのもと、上記研究主題を設定した。

## 2. 本校児童の現状と課題

- ・ 休み時間は運動場で体を動かす児童が多いが、そうでない児童もあり、二極化されている。
- ・ ボール運動は得意だが器械運動は苦手など、運動能力のアンバランスさがある。また、得意な児童と苦手な児童の差が大きい。
- ・ 新しい動きの習得に対して消極的で、なかなか挑戦しようとしなない児童が多い。
- ・ 朝会など、短時間でも姿勢を保つことが難しく、ふらふらしたりする児童が多い。
- ・ 給食を完食したりおかわりしたりする児童もいるが、給食を残す児童も多い。

からだづくりに関するPDCAサイクルの確立

P (Plan=計画)

↓ ・ からだづくり研究推進計画（課題、目標の設定）

D (Do=実行・実施)

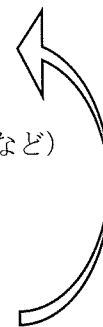
↓ ・ 学校における取り組み（教科教育、食育、特別活動など）

C (Check=点検・評価)

↓ ・ 活動の検証（体力テストなど）

A (Action=処置・改善)

・ 成果のあった事例を普及し、課題については改善



### 3. 目標と研究内容

#### ①運動することの楽しさを味わわせるための環境づくり

- ・ 体育備品や教具の充実（購入、点検、整備）
- ・ 体育の授業づくりのための教職員の研修
  - \* 体育関係研修会への積極的な参加
  - \* 校内研修の充実
    - 専門家をゲストティーチャーに招いた授業
    - 各ブロック1本ずつの公開授業
    - 年複数回の校内実技研修会の実施
- ・ 体育指導年間計画の作成

#### ②好き嫌いなくしっかり食べて、いっぱい遊ぶ子ども

- ・ 給食指導、食育指導、生活指導の見直し
- ・ 委員会活動などの児童の主体的な取り組みの推進
  - 児童会、保健委員会、体育委員会、栽培委員会などの活動内容の工夫

#### ③児童の基本的な生活習慣（運動習慣・食習慣など）や体力・運動能力の把握

- ・ 体力テストの実施及び結果の分析と考察
- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の考察

#### ④地域とともに連携して進める

- ・ 地域の体育的行事への参加拡大
- ・ 効果的な情報発信

#### ⑤研究したことのまとめ

- ・ 研究紀要（冊子）づくり

## Ⅱ. 2年間の取り組み

H29年度（2017年度）

### ①基本的な生活習慣（運動習慣や食生活など）や運動能力の把握

- ・体力テストの結果の分析

### ②体育関係研修会への参加

- ・近畿小学校体育研究大会
- ・筑波学校体育研究会 夏季研修会
- ・小学校体育における授業力向上研修会
- ・大阪小中学校体育研究発表会

### ③ゲストティーチャーによる授業

- ・齋藤直人先生（筑波大学附属小学校教諭）による公開授業  
＜2学期＞1年生、4年生      ＜3学期＞2年生、5年生
- ・1年生『食育』      豊中市立走井学校給食センター
- ・3年生『マット運動、鉄棒運動、ボール運動』      特定非営利活動法人 RESC

### ④校内公開授業の実施

- ・1年生 「なわとび運動、マット運動」
- ・6年生 「なわとび運動、マット運動」

### ⑤校内研修会の実施

- ・夏季校内研修 『なわとび運動・体ほぐし運動 運動の手引き』  
豊中市教育委員会事務局 保健体育係
- ・校内研修（12月） ドリルゲーム、なわとび運動
- ・校内研修（2月） マット運動、とび箱運動

### ⑥朝会、休み時間を利用しての体育活動

- ・東豊（ひがとよ）チャレンジ
- ・なわとび朝会
- ・マラソンタイム

### ⑦体育備品や教具の充実

MIKASA スマイルバレーボール、ハードル、ハンドホイッスル、短なわ、長なわ

## H30 年度（2018 年度）

### ①体育関係研修会への参加

- ・筑波学校体育研究会 夏季研修会
- ・大阪小中学校体育研究発表会

### ②ゲストティーチャーによる授業

- ・齋藤直人先生（筑波大学附属小学校教諭）による公開授業  
＜2 学期＞1 年生、4 年生
- ・1 年 水泳指導 ルネサンス豊中
- ・4 年 『食育』 豊中市立走井学校給食センター
- ・1 年 わくわくスタートかけっこ教室 大阪国際大学陸上部

### ③校内公開授業の実施

- ・1 年生「ネット型ボール運動」（二人制ドッジボール）」
- ・3 年生「ゴール型ボール運動（段ゴール）」
- ・6 年生「ネット型ボール運動（ソフトバレーボール）」

### ④校内研修会の実施

- ・校内研修（7 月） からだづくり運動、陸上運動、とび箱運動
- ・校内研修（10 月） 筑波学校体育研究会夏季研修会で学んだことの共有

### ⑤朝会、休み時間を利用しての体育活動

- ・東豊（ひがとよ）チャレンジ
- ・なわとび朝会
- ・マラソンタイム

### ⑥体育備品や教具の充実

- ・EVERNEW ミニマルチマット、ラダー、ミニハードル、マーカーコーン

### ⑦取り組みの検証と提起

- ・体育指導年間計画（全学年）の作成
- ・次年度への提起
- ・冊子の作成

### Ⅲ. 校内研修

保健体育部 夏季校内研修

平成 29 年 (2017 年) 7 月 26 日 (水)

豊中市立東豊中小学校多目的室

#### 「なわとび運動・体ほぐし運動 運動の手引き」

講師 豊中市教育委員会 保健体育係主幹 藤原誠

保健体育係係長 山崎雅史

#### 1. 体育の授業づくりで大切にしたいこと

体育も含め、授業づくりで大切にしたいことは何か。それは、

①授業を計画する

②年間を通した取り組み

③授業を考える

である。

#### ①授業の計画といっても、年間計画、学期計画、単元計画など多岐にわたる。

年間計画では、からだづくり運動は全学年で指導する。また、地域や子どもの実態に応じて、運動の課題を解決する活動を工夫すべきである。

#### ②年間を通した取り組みについては、

- ・児童の実態を把握する
- ・児童の実態を把握する
- ・学習の狙いを確認する
- ・子ども同士の関わりを大切にする

上記の4つを行う。まず子どもたちが、何を、どこまで、どのように学習してきたのか。また、学級の雰囲気はどうか、リーダーシップはどうかなどを把握する。その上で、

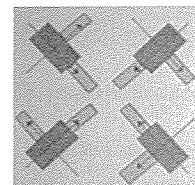
「〇〇ができるようになりたい。そのためには、□□が必要だから、△△の練習をする。」

と学習のねらいを確認する。そして、子ども同士の関わりを意識した学習のルールを指導する。例えば、「失敗しても励まし合おう」「安全のためにふざけない」など。

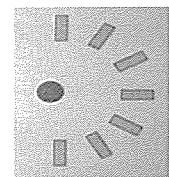
#### ③授業を考えるとときは、

・場の設定    ・ルールを工夫する    ・学習カードの活用  
を行う。児童の立ち位置については、児童が課題を解決しやすくするために、気になるものが目に入らないように考慮する。また、ルールは簡略化されたものが望ましい。

↓とび箱



↓マット運動



自分のめあてを確認したり、学習の記録を残したりできる学習カードも活用したい。

#### 2. 体ほぐし運動

下記の「体ほぐし運動」を学んだ。

「紙になって (低学年)」    「ダンボールサンド (低学年)」    「新聞紙 (1人) を使って (低学年)」

「ひっこぬき (低・中学年)」    「円形フープ送り (中・高学年)」

「新聞紙 (2人) を使って (中・高学年)」    「わりばしを動かそう (全学年)」

2 学期に実際に子どもに取り組ませた活動もあった。道具を使った運動は、自分が思っていた通りにはできないものも多く、どうすれば上手くいくかという思考判断も鍛えられるものだと感じた。新聞紙やわりばしなど、すぐに用意できる道具ばかりだったので、授業導入部でも活用しやすかったと感じた。



「ドリルゲーム、なわとび運動」

1. ドリルゲームいろいろ

① みんなでいっしょ

【準備】

- ・ 4 列に並ぶ ・ 列の間をつめ (小さく前へならえ) 前の人のもつ

【活動の進め方】

- ・ 4 拍子のリズムでタイミングをあわせて、みんなでジャンプする。
- ・ 指導者の「前・後ろ・右・左」のかけ声にあった動きをみんなでする。
- ・ 技能や思考・判断をさらにあげたい時は「やること反対」と言って、指導者が「前」と言えば、児童は「後ろ」にジャンプするといった活動を取り入れる。

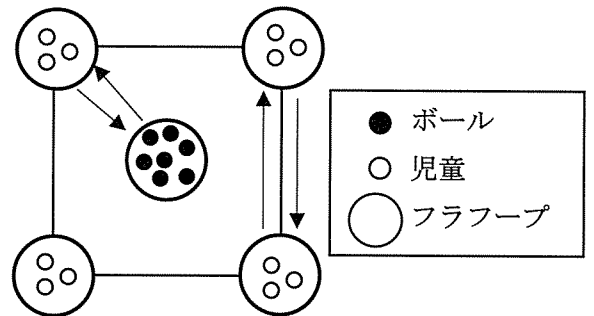
② 7 ボール

【準備】

- ・ 正方形のコートの四隅と中央にフラフープ (以下、フープ) を置く。(それぞれ色が違うのがのぞましい。)
- ・ スタートは中央フープ内にソフトハンドボールを 7 つ置く。
- ・ 4 グループが四隅のフープにそれぞれ整列。

【活動の進め方】

- ・ スタートの合図でボールを取りに行く。
- ・ 各グループ一人ずつ動く。ボールを一つ自チームのフープ内に置いたら、タッチで交代。
- ・ ボールは中央フープ、他チームのフープのどこからとってもよい。
- ・ ボールを投げたり転がしたりするのは禁止。
- ・ 他チームの妨害は禁止。
- ・ 自チームのフープ内にボールを 3 つ揃えたチームの勝ち。



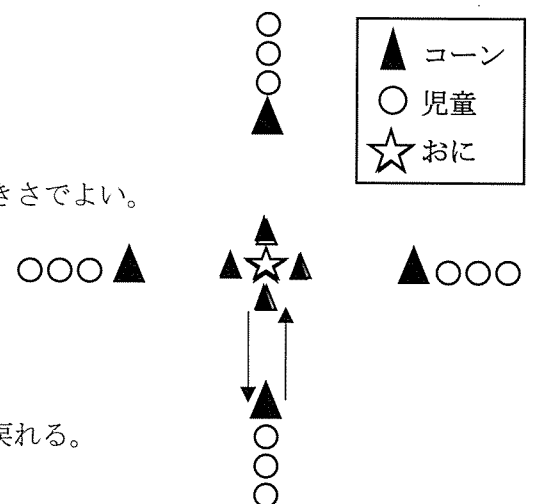
③ 通してくれてありがとう

【準備】

- ・ コーンをひし形になるよう中央に配置。直径 2 m の円ほどの大きさでよい。
- ・ 各コーンの延長線上にコーンを 1 つずつ置く。
- ・ 中央コーン内におにが 1 人。
- ・ 外コーンに、グループごとに 1 列に整列。(計 4 グループ)

【活動の進め方】

- ・ スタートの合図で中央に向かって進み、コーンを折り返したら戻れる。
- ・ 中央コーン内に進入した際、おににタッチされたらおにに交代。
- ・ ゲームに慣れてきたら、一番早く全員戻ってこれたチームの勝ち、全員おにの方を向いてターンする、ボールを投げ上げながら、ボールをけりながら等、クラスの実態に応じて難易度を上げて取り組むこともできる。



## 2. なわとび

### ① 止め技

#### 【アームラップ】

- ・なわを体の横で回し、片腕にまきつける。
- ・なわをまきつける時の、手首だけを回転させる感覚は、短縄全てにいかされる。

※腕に巻きつける途中で、巻きつけている腕と反対側の足をなわにかけて止めることもできる。【写真1-番号】

【写真1】



#### 【クロスフリーズ】

- ・腕を体の前でクロスする。
- ・なわを両肘にかけてながら腕を開く。
- ・体の前でなわがクロスした状態になる。

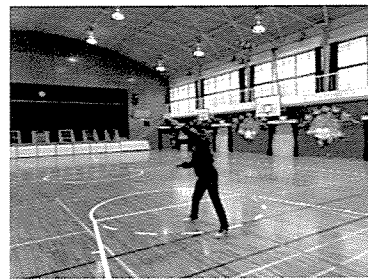
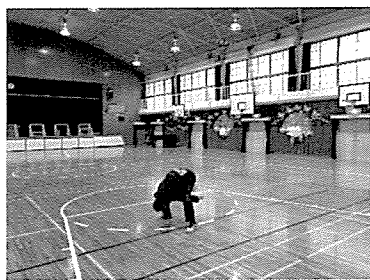
※両腕をリズムよく上や左右に向けることで、止めるパターンを増やすことができる。



#### 【リリースキャッチ】

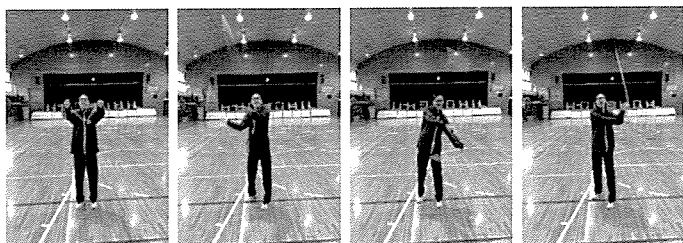
- ・片方のグリップを両足の間からまっすぐ後ろにリリースする。
- ・なわがまっすぐになったタイミングで、片方のグリップによって前にひきつける。
- ・いきおいよくあがったグリップをキャッチする。(無理にひきつけない)

※タイミングをそろえるのも、1テンポずつずらしてやってもおもしろい。

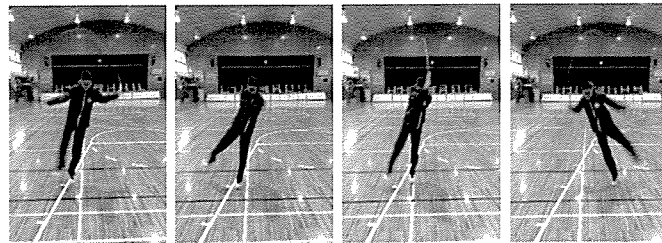


### ② 跳ばないなわとび

#### 【カンフー】



#### 【かえしとび】

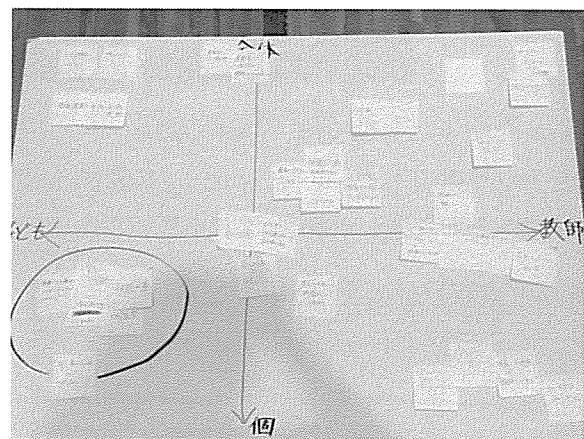
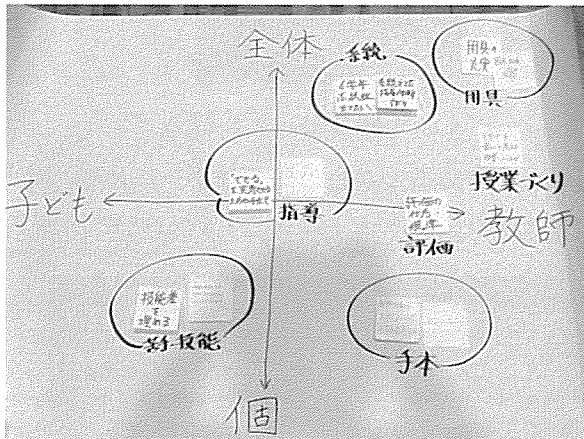


平成 29 年 (2017 年) 10 月 11 日  
豊中市立東豊中小学校体育館

### 「一から学ぶ体育の授業づくり」

講師 筑波大学附属小学校 齋藤直人先生

研修会の最初に、参加の教職員で 4~5 名のグループを作り、「体育の授業で困っていることや知りたいこと」を付箋と座標軸を使って様々な意見を出し合った。縦軸は全体と個に関すること、横軸は教師と子どもに関することでまとめていった。その中には、「子どもにできた！を実感させるための手立て」や「指導の系統性」、「用具や時間の問題」「授業の組み立て方」など、様々な意見が出された。

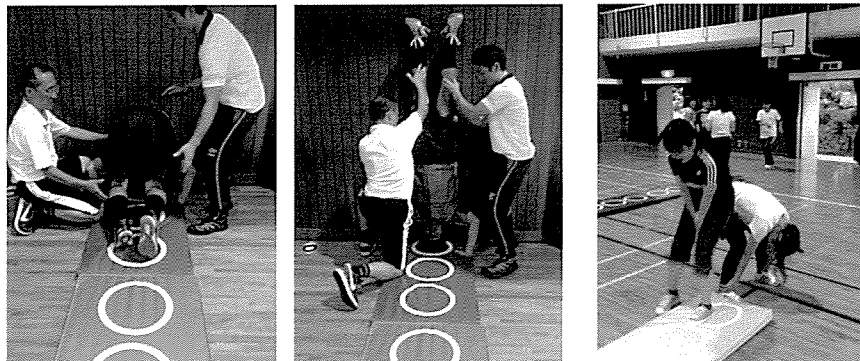


それらの意見をもとに、齋藤先生から実際に授業を通して実践していることや気をつけていることが紹介された。

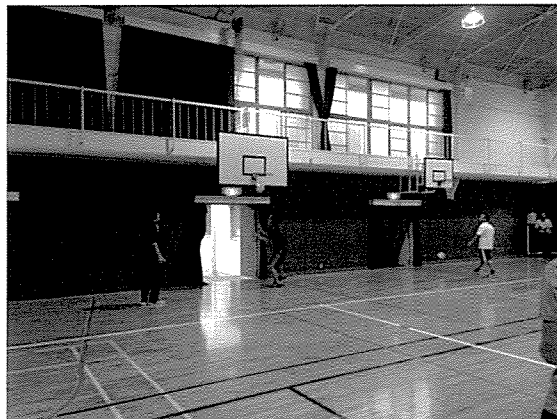
- ①授業に必要な用具（特にマットやとび箱など）は、可能な限りすぐに使用できるように体育館の壁などにまとめておくとよい。
- ②授業の中で子どもの評価をするために、ポケットに収納できるサイズの名簿を入れておく。
- ③体育カードを毎時間作る方法以外にも、各自で体育ノートを作り子どもに記入させる方法もある。
- ④子どもは大人よりも柔軟性があり怪我をしにくいので、折り返しの運動や鬼ごっこなどの全身運動を準備体操の代わりに行うことも可能である。
- ⑤整列などを素早く行わせるために、列ごとにポイント制を導入すると子どもたちは進んで素早く行動するようになる。

次に器械運動の実践を通じた研修を行った。今回 1 年生の公開授業で行ったよじのぼり運動から壁倒立につながる系統的な運動を、教職員が実際に補助や倒立を行うなかで「どのような指示をしたらよいか」、「どのようなポイントに気をつけるか」を学んだ。例えば三点倒立の場合、両手と頭の位置が三角になること、補助を行う場合は足を上げられるかどうかで補助のタイミングが変わること、足を上げるのが難しい場合は、蹴り上げて上がっていない足を補助で持ち上げることで足全体が上がることなどである。

その他にも、マット運動では、子ども同士でハンドスプリングの補助を行う際のポイントとして、運動者がマットに両手をついた瞬間に、四つん這いになった補助者が体を寄せて密着させることでうまく補助を行うことができることを、実践を通して学んだ。また、とび箱運動の導入として「馬とび運動」をさせることが有効であることを紹介した。筑波大学附属小学校の体育では、低学年以外でも十分「馬とび運動」を行った上で、実際にとび箱を使うのはカリキュラムの最終段階にしているとのこと。



ボールを使った運動では、「MIKASA」の「スマイルボール」という軽量ボールを使うことで、ボールが苦手な児童でも扱いやすくボールに対する恐怖心が少なくなることから、様々なボール運動へ応用が可能である。実際に教職員同士でボールを使いパスを行ったり、シュートの練習を行ったりした。



## 「マット運動」

### 1. マット運動

#### ①技につながる前のからだづくり運動

##### 【動物歩き】

うさぎ、くも、くま、かに、しゃくとり虫など。それぞれポイントや意識する部分を考えて行うことが大切である。マット運動では、手の着く位置や腰の高さ、逆さ感覚に慣れることなどが大切である。こういった運動を事前に繰り返し経験することで、安全に、正確に技ができるようになることが期待できる。

#### ②前転系の技

##### 【前転】

技の終わりは、手を使わずに立つことが目標である。そのためには、勢いをつけて技を行うことが必要である。座った状態から技を始めてもそれはできるが、立った状態からの方が比較的やりやすいと思われる。そこで、2つの方法に取り組んだ。

1つ目は、体を前屈させ、足の近くに手を置き、前転する方法である。膝を曲げないため、腰の位置が高くなり、回転するとき自然と勢いをつけることができる。しっかり顎を引き、後頭部をマットにつけることも大切である。足が着いたら、手を前に伸ばすとスッと立ち上がりやすい。

2つ目は、体から遠い位置に着手して、前転する方法である。これも、腰の位置を高くに保ったまま回転できる。さらに、前への推進力もつけることができるのもポイントである。両足が地面に着いたまま行うのが難しい場合、片足を後ろに上げ、徐々に体を前に倒していき、頭の位置がマットに近くなったら着手し、前転するとやりやすくなる。

##### 【開脚前転】

開脚前転の場合、手を使わずに立つのは非常に難しい。手の使い方がポイントである。とび箱を跳ぶときと同様、肩の位置が手首よりも前になると、自然と重心が前に傾くので、立ちやすい。反対に、肩の位置が手首よりも後ろになってしまうと、重心が後ろに残るので、立ちにくくなってしまふ。回転の勢いを利用する必要があるので、回転後すぐに両手をマットにつけ、前傾姿勢を意識すると成功させやすい。

#### ③後転系の技

##### 【後転】

後転で難しいのは、まっすぐ回れない、上手く立てないことである。前転と同様、座った状態で成功させるのは難しい。勢いにつかないからである。よって、後転も立った状態から始めるとやりやすい。膝を曲げずに少しずつ体を後ろに倒し、お尻がつくと同時に回転すると、勢いよく回れるので、まっすぐ回れる。ただ、恐怖心が生まれることも多いので、体の両側に手をついたり、足を開いて体の前を手をついてからお尻をついたりするようにすると、やりやすくなる。また、着地はどうしても膝を先に叩いてしまうことが多いので、つま先から着地することを意識すると、立ちやすい。

#### ④側方倒立回転

いわゆる「側転」である。「側転してみて」と子どもに言うと、体を横向きにして回ろうとする子どもが多いが、実際は技の入り方は前向きである。技の入り方は前向きだが、手の着き方や足の動かし方で横向きに回転できるよう、段階的に体の動きを身に着けさせていくことが必要である。とび箱を使ったり、紐を使ったりして、徐々に正しい側方倒立回転の動きに近づけていく。

マット運動は、いずれも頭の位置が地面に近くなる「逆さ感覚」が伴う技ばかりである。自分がどういった動きをしているのか、上手にできているポイントはどこか、改善すべきポイントはどこかは自分では判断しにくい。ペアやグループでアドバイスし合うことも有効な手立てであるが、iPadなどを活用し、自分の技を映像として見るのも有効である。

からだづくり研修会

### 実技研修編

講師 筑波大学附属小学校 齋藤 直人

#### I マット運動

大の字回り→側方倒立回転

○川わたり

(先に着くのは、右手?左手?←やりやすいのは?)

○『ぎーこ!ぎーこ!それーっ!!!』

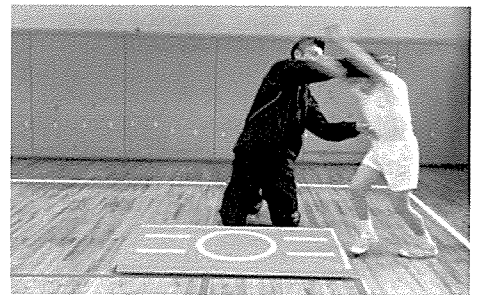
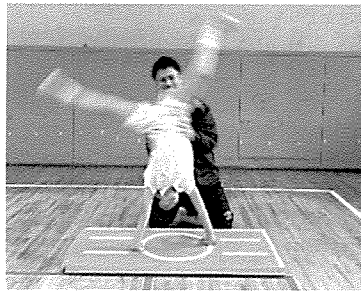
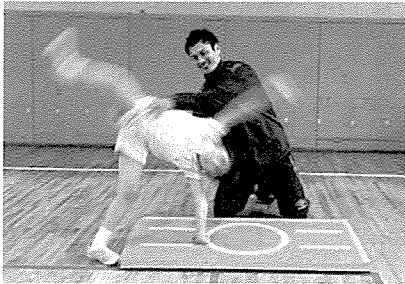
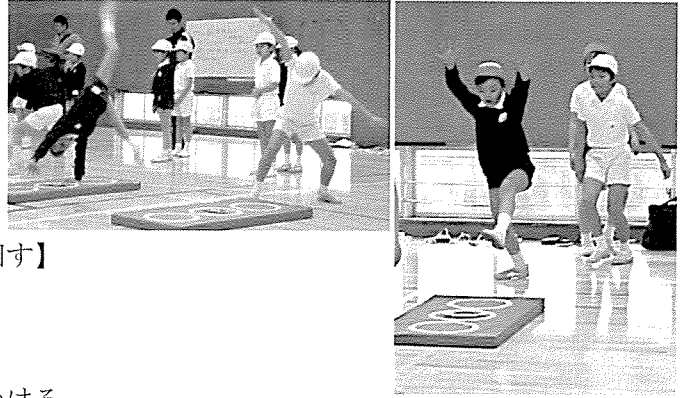
◎補助は

【子どもの背中側で準備して、腰のあたりをもって回す】

☆ポイントは

【目線はマット(目印・帽子の活用)】【肘を伸ばす】

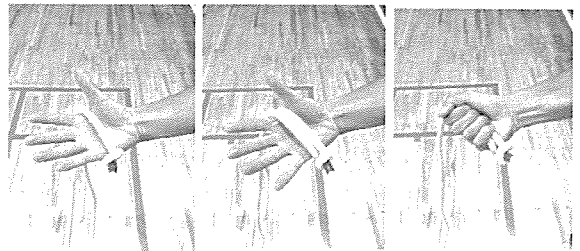
○正面から入って側方倒立回転。先に着く手に気をつける。



#### II 長なわ

長なわの持ち方・回し方

太さ10mm程度の適度な重さのある綿や化繊混紡のものがオススメです。長さは3~4mほどで、両端に結び目を作ればほつれ止め・すべり止めになります。回し方の基本は、腕を伸ばして大きく回し、膝の曲げ伸ばしでリズムをとる。ただし、速くなわを回すときやダブルダッチのときには、手首と肘を使って回します。



長なわの系統性

大波・小波  
ゆうびんやさん ○  
とおりぬけ

○の字とび  
かぶりまわし8の字とび  
むかえ回し8の字とび

○ ひょうたんとび  
ひょうたんダブル  
ダブルダッチ  
長なわパフォーマンス

(1) ゆうびんやさん、とおりぬけ

『ひろ～ってあげましょ！1まい 2まい 3まい…』の“1まい”ごとに、1回旋させて跳ばせま  
す。回し手は、最初はゆっくりのリズムを意識できるが、回旋が始まるとリズムが速くなることが多く  
見られます。

(2) 0の字とび、8の字とび（かぶり回し・むかえ回し）

0の字とびは「走って→跳んで→逃げる」を意識させます。ラインなどの目安があると跳びやすくな  
ります。8の字とびは、跳んだら回し手のすぐそばを抜け、回し手のすぐそばに並んで準備させましょ  
う。

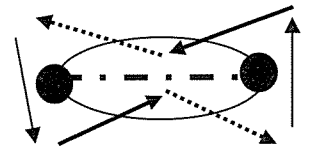
10人程度のグループごとに取り組みせましよう。グループの最高得点を合計してクラス得点としま  
す。

また、「かぶり回し」だけでなく、下から自分に近づいてくる「むかえ回し」でも取り組みせま  
す。ポイントは、なわが目の高さを下から上に通り過ぎたら、なわを追いかけるようにスタートして入ること  
です。

(3) ひょうたんとび・ひょうたんとびダブル

ひょうたんとびでは、入った方向と同じ方向に抜けます。

かぶり回しとむかえ回しの両方の入るタイミングをつかんでいけると取り組みやす  
くなります。



また、2人同時に跳ぶこともできます。

跳ぶときに奥に入りすぎないようにすることがポイント  
になります。そこで、回し手を結ぶ線から反対側へ大きくは  
み出さないように気をつけさせましよう。ここでも体育館の  
ラインなどの目安があるとよいでしょう。ダブルでは一緒に  
跳ぶ相手を意識しすぎないように声をかけましよう。

(4) ダブルダッチ

難しいように思えるが、①回し手がしっかり回せること②むかえ回しに入って跳べることの2つのポ  
イントをおさえて、取り組むことで全員が一緒に学習することができます。

①は、2人でなわをぴんと張り、長さを合わせます。小さくなわを回しはじめ、少しずつ近づきます。  
床になわが当たる所まで近づき、膝を使ってリズムを  
とります。全員が回し手になれるように指導させま  
しよう。

②は、2本のなわを意識するのではなく手前のなわ  
(むかえ回しのなわ)に合わせて、とぶようにします。  
むかえ回しで8の字とびを事前に扱っておくとスム  
ーズに学習ができます。





## 「とび箱運動」

### 1. 安全な場の設定について

- ・とび箱の設置場所については、教師から見て横 1 列に並べる・放射線状に並べるなど、児童の動きを把握できるようにする。
- ・とび箱の運び方については、一番上のとび箱が重く、従来の持ち方では児童がバランスを崩して怪我につながる可能性があるため、とび箱の横を持つ運び方の提案をした。
- ・マットの置き方については、とび箱に対して縦と横の両方にマットを置くことで、とび箱を縦・横どちらにでも使うことができるようになる。



### 2. 低学年のとび箱を使った運動遊び

まず始めに、低学年のとび箱運動につながるからだづくり運動を提案した。

カエルの足打ちやうさぎとび、動物のまねっこなどの動きを通して、手で体を支える力を養うとともに、お尻が腰よりも高い位置にある感覚なども身につけさせることにつながる。



とび箱を使った運動遊びとしては、とび上がり、とび下り、とび越しの基本的な動きに加えて、とび箱に跳び乗る動きから、とび箱の上を手でずりずりと移動する動きを通して、手で体重移動する感覚を身につけさせる。その運動に遊びの要素を取り入れた「ずりずりとん」からの「どんじゃんけん」などを低学年の運動遊びとして提案した。

### 3. 中学年以降の開脚とびの指導

開脚とびに向けた練習として、低学年で行った「ずりずりとん」の運動遊びから、とび箱を飛び越す動きとしてラインなどの目印を目標に、より遠くに着地する動きを行った。着地点に 3 つの○印がついたマットを設置し、手前から何個目の○で着地できるかを見る。

そのほかにも、マットを使ったうさぎとびやセーフティマットを使っているスーパージャンプといった動きを紹介した。スーパージャンプは踏み切りの足の力を養うことを目的とした運動になる。

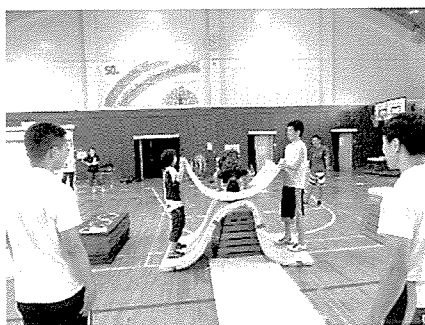


#### 4. 教師の補助について

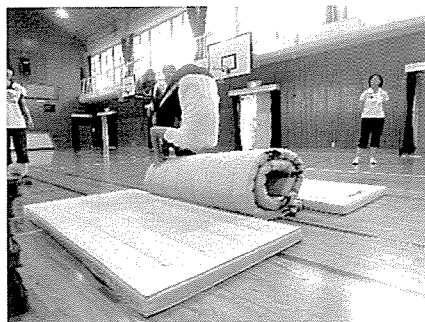


開脚とびと、台上前転について教師がどのように補助を行えばよいか、実践を交えながら行った。

開脚とびでは、腕を支点とした体重移動の動きを「ずりずりとん」がしっかりできている児童に対して職員が児童の腕とお尻を支え、体重移動を手助けする補助を実践した。腕を支点とした体重移動が十分でない児童に対しては、有効な補助ではないことも補足で伝えた。



台上前転では、とび箱で練習する以前に長いマットを丸めて、その上で台上前転の練習をさせる紹介をした後に、マットをとび箱の上に置いた補助の方法を提案した。



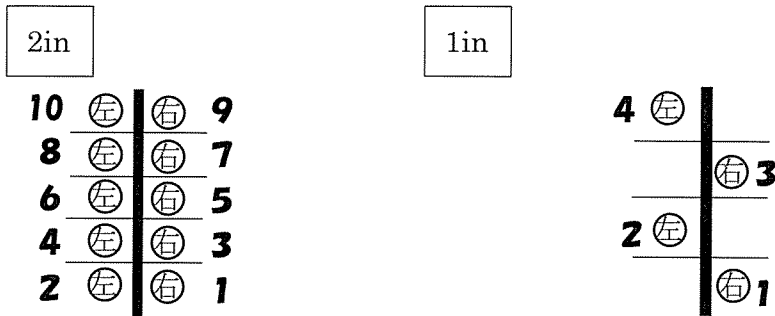
「陸上運動」(ラダー・ミニハードル)

1. ラダー・ミニハードルの使用の目的、意図の確認

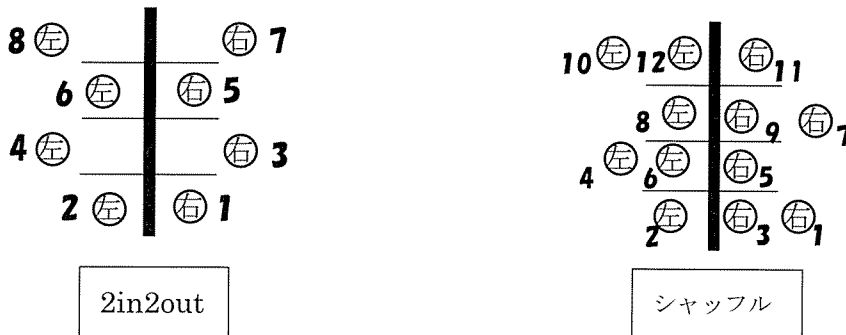
技能習得より俊敏性・敏捷性やリズム感を鍛えるものであるということ。授業で単元を組むというよりは、ウォーミングアップとして一時間の最初に少し組み込んで長期的に取り組むことで成果があらわれるものであるということを伝えた。ちなみに、ラダートレーニング、ミニハードルトレーニングの後 10m くらいのダッシュを行ったほうが効果的だと考える。

2. ラダートレーニングでの系統的トレーニング

①俊敏性・敏捷性を鍛えるもの

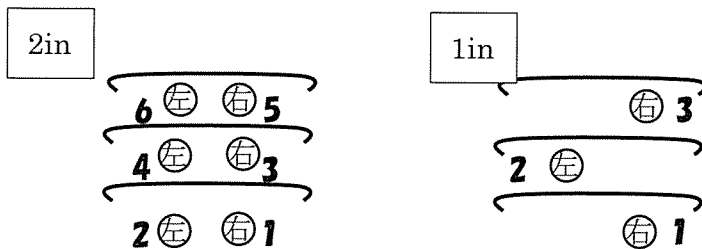


②リズム感覚を養うもの

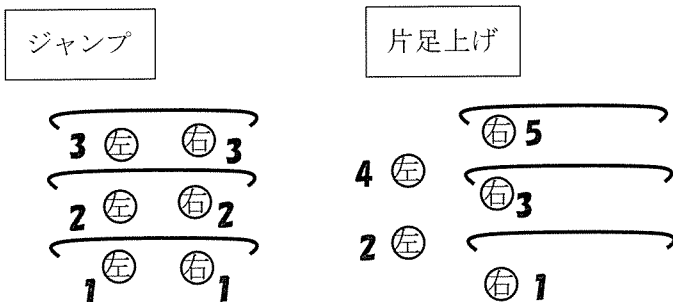


3. ミニハードルトレーニングでの系統的トレーニング

①俊敏性・敏捷性を鍛えるもの



## ②リズム感覚を養うもの



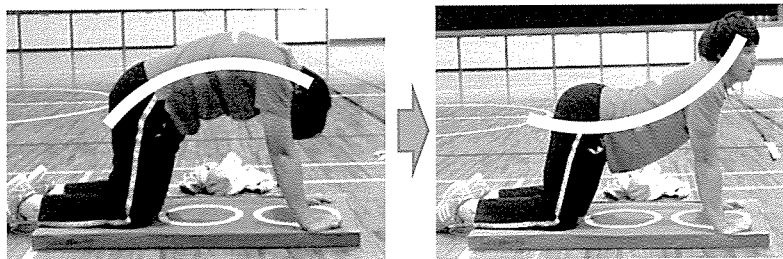
### 4. まとめ

上記のようなトレーニングを紹介したが、他にも横向きや後ろ向きなど簡単な工夫をしたり、一人ではなく二人で向かい合いながら同時にしたりすることにより、達成感や一緒にできたという連帯感を得られる効果がある。

## 「ゴール型、ベースボール型の運動」

### 1. マット運動の準備体操について

- ・マット運動に必要となる“体幹”を意識して使うことを目的として、「ねこちゃん体操」を紹介した。
- ・逆さになったり、回転したり、腕で体を支えたりといったマット運動の基本的な運動感覚を養うために、「背支持倒立」「ゆりかご」「カエルの足打ち」の3種類を紹介した。



### 2. ゴール型のボール運動（ディスクゲーム）

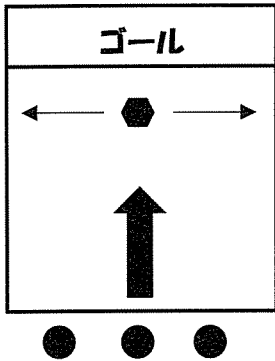
ディスクゲームの狙いの一つに、ボールを持たないときの動きを学ぶことが挙げられる。ゲームのルールとして、攻撃3人対守備1人。ドッジビーをパスでつなぎ、ゴールを目指す。（ドッジビーを持ったまま移動してはいけない。）ゴール内でキャッチ成功したら得点。（落としてはいけない。）ゴール以外のエリアでは落としたりしてもOKである。

ディスク（ドッジビー）を使う良さとしては、ボールに比べゆるやかな軌道を描きながら飛び、落ちても転がらずに止まるためキャッチがしやすく、技術面での差が出にくい。また、素材自体もやわらかく児童にとって比較的扱いやすい教具と言える。

3人一組のチーム編成で行い、攻撃3人に対し、守備は1人とする。理由には、得点をとる楽しさを味わわせるねらいが挙げられ、攻撃側に有利な形となっている。

攻撃チームは、相手ゴールエリアでディスクをキャッチすると得点になるが、ディスクを保持してい

る人は移動ができなくなるため、ディスクを持たない人の動きが重要になってくる。そのため、指導者は「どこでもらいたいか。」「どこへ行けばいいか。」など、得点に結びつく動きを考えさせるような声かけが有効であることを提案した。



### 3. ベースボール型のボール運動

ベースボール型のボール運動で考えられる課題として、次のようなことが挙げられる。

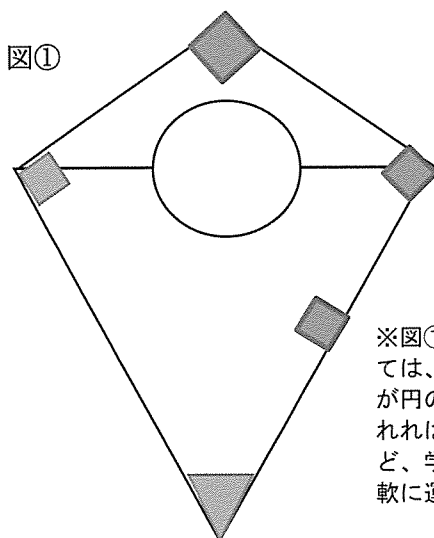
- ①バットを使って飛んでくるボールを打つことが難しい ②個々の運動量の確保が難しい

今回の研修会では、これらの課題を踏まえた上で、ボールを打つ楽しさや、得点を取る楽しさが味わえるゲーム構成で提案した。

課題点①については、「打者がティーに乗せた（止まっている）ボールを打たせること」で改善を図った。（図①参照）これにより、苦手な児童はねらいを定めて落ち着いて打つことができるほか、得意な児童は飛ばす方向や打つ強さなどにも工夫をし、作戦を立てながらゲームを進める面白さがある。

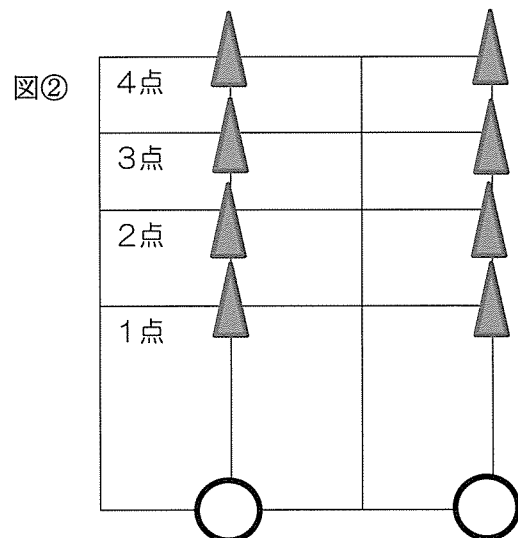
課題点②については、「攻撃側の打者はボールを打った後、コーンをタッチしてもどってくる」というルール改善を図った。（図②参照）タッチして戻ってくるコーンにも、距離に応じて得点の違うもの（1～4点）を用意した。守備側はボールをキャッチしたらチーム全員でボールに集まり座るため、試合を通して攻撃側・守備側ともに十分な運動量を確保できるのではないかと考える。

さらに、攻撃側は、守備側が座るより速くコーンを回ってくると得点になるが、ボールの軌道や相手の動きを見て、回るコーンを決めなければ得点に結びつかない。守備側も、どうすれば阻止できるかをチームで考えながら守備位置を決めなければいけない。授業回数を重ねるごとに、チームとしての戦術や会話が増えてくることも期待できる教材だといえる。学年に応じて、例えば低学年では、バットを使わず直接投げたり、守備側のアウトの取り方を変えたりとさまざまな工夫ができる。



図①

※図①のルールについては、例えば、守備側が円の中にボールを入れればアウトになるなど、学年等に応じて柔軟に運用する。



図②

## IV. 公開授業・研究授業・示範授業

### 体育科学習指導案

豊中市立東豊中小学校

指導者 大橋 創

1. 日 時 平成 29 年（2017 年）10 月 11 日（水）第 4 限（13：15～14：00）
2. 学 年・組 6 年 1 組（男子 15 名、女子 16 名…合計 31 名）
3. 場 所 体育館
4. 単 元 名 長なわ：8 & 6  
マット運動：逆立ちからお手伝いブリッジ→お手伝いハンドスプリング
5. 単 元 目 標 長なわ：タイミングを自分でとり、リズムよくなわに入ることができる。  
ジャンパーのタイミングに合わせてながら、なわを回すことができる。  
マット運動：倒立技を安定して行うとともに、発展技を行うことができる。  
仲間の課題に気づき、教えることができる。  
安全に配慮した活動や、補助をすることができる。

#### 6. 本時の展開

時間	授業内容	指導のポイント
3分	活動内容①長なわ 8 & 6 ②よじのぼり逆立ち→ブリッジ	
20分	<b>8 &amp; 6 練習</b> ・ 8 & 6 の様々な動き方に挑戦する。 ・ 確実に（安定して）できる抜け方を見つける。 ・ 友だちの動きを見て課題を見つけ合う。 <b>個人ポイント</b> 縄が 10 回、回るまでに 3 回跳ぶ。 ・ 3 回技に挑戦し、合計ポイントをつける。 ・ グループ全員が連続で跳べそうな技を見つけておく。	○入り方、抜け方、跳ぶ位置を意識させ、友だちの課題を見つけ合えるようにする。 ○確実にできている所を見つけ、そこをほめるようにする。⇒「綺麗に跳べてるね」「余裕があるね」「動きがスムーズ」 ○3 回ともミスしなければ、ボーナスポイントをつける。 ○グループ全員が連続で行える技を見つけ、次時につなげる。
20分	よじのぼり逆立ち→ブリッジ（補助） <b>班ごとに練習</b> ・ マットの準備をする。 ・ 最初は足をもってもらいながら行ってもよい。 ・ 両手、両足が着地したら、静かに台の児童が抜け、ブリッジの姿勢をとる。 ・ 補助なしでもできるか挑戦する。	○補助の入り方を確認する。 ⇒台の児童は相手の肩あたりに脇腹を当てる。 台以外の児童も両サイドにつく。 ○ゆっくりと壁から足を離すことを意識させる。
2分	本時のふりかえり 体育ノートに記入する。	

豊中市からだづくり研究推進校研究会

## 指導案編

筑波大学附属小学校 齋藤 直人

1. 児童 豊中市立東豊中小学校 4年1組（細河学級）36名 1年3組（北村学級）27名

2. 本時で取り上げる運動教材

4年生 なかよしとび（からだづくり） 関所ジャンケン（からだづくり）  
つづけるくん（ボール運動）

1年生 ゆうびんやさん（からだづくり） おりかえしの運動（からだづくり）  
よじのぼり（マット運動）

3. 本日の授業のねらい

この「からだづくり研究推進校」の取り組みを通して、豊中市全体の日々の体育授業が充実していくことが大切だと考えております。つまり、附属小学校や研究推進校、体育授業が好きで得意な先生にしかなできない授業や提案ではなく、豊中市のどの小学校でも、どの先生でも真似できるような、真似したくなるような「シンプルだけど、子どもが伸びる」授業を提案したいと思います。もちろん、私が提案するだけでなく、東豊中小学校の先生たちと一緒に授業していければと思います。

このような考えのもと、本日は「つながり（系統的な指導）」をポイントに授業を展開します。

指定を受けたからといって、特別な仰々しいことをするのではなく、一般化されやすい汎用的で効果的な授業を探っていくことも研究の方向性としては大切だと感じています。

4. 運動教材について

### 【4年生】

○なかよしとび（からだづくり）

「長なわとび」というと、一定時間内に8の字とびを何回跳ぶことができるかという教材を思い浮かべると思います。逆に言うと、それしか取り組んでいないような地域もあります。しかし、長なわとび（長さ3m）は低学年から高学年にかけてスモールステップで発展的に取り組んでいくことのできる教材なのです。今回はその中から、友だちと動きを合わせることや跳ぶ位置、跳んだ後の動きなど学習のポイントが明確な「なかよしとび」に取り組めます。記録達成型ではありますが、チームごとの対戦で終わらせず、クラスの記録を更新する意識をもたせて取り組ませたいと考えています。

○関所ジャンケン（からだづくり）

「関所ジャンケン」は、さまざまな運動を楽しみながら取り組む教材です。さまざまな運動に取り組ませながら「腕支持感覚、逆さ感覚、体幹の締め、体を移動する動き」を身につけさせます。簡単な方法で効率よく運動量を確保できるだけでなく、ゲーム性が高く子どもたちが夢中になって取り組むことができます。体の総合的な動きを身につけさせることのできる運動教材の1つです。この総合的な動きをより多く経験することが、さまざまな運動の基礎を育てていきます。つまり、「からだづくり」そのものと言えます。

### ○つづけるくん (ハンドテニス) (ボール運動)

「つづけるくん (ハンドテニス)」は、初めてのネット型ボール運動に合っている教材だと考えます。短時間でボール操作がある程度習得でき、単純なルールで行える運動です。以下に大まかなルールを示します。

ネット型は本来、相手のミスで得点が加算されるゲームですが、今回は協力型のネット型の教材を扱います。ボール操作の技能の向上と共に、ラリーが続く楽しさを体験させます。

- ワンバウンドで山なりのパスをし合い、何回続くかを数える。ツーバウンドしたら失敗。
- 打ち方は、グーでも、パーでも、両手でも可。(両手やパーがコントロールしやすい。)
- 手で持って返さないようにする。
- 2人1組で行い、班での合計点を出す。(4人で1班)
- 各班の記録を合計し、クラス得点の合計点を出す。



### 【1年生】

#### ○ゆうびんやさん (からだづくり)

「ゆうびんやさん」は、全員になわを跳ぶこと・回すことの経験値を高めるのに適した教材です。特に、低学年期には跳ぶ経験が乏しいまま、回し手を固定することは避けたいと考えています。跳ぶことも回すことも全員の共通課題として扱わなければ、その後、スモールステップを意識して教材を高度にしていくことは困難になってしまいます。跳べない子を跳ばせるために、丁寧になわ回しをしようとするれば、身につけさせたい技能に向かっていきます。

#### ○おりかえしの運動 (からだづくり)

「おりかえしの運動」は、簡単な方法で効率よく運動量を確保できるだけでなく、体の総合的な動きを身につけさせることができる運動教材です。この総合的な動きをより多く経験することにより、さまざまな運動の基礎を育てていきたいと考えています。まさに“からだづくり”です。今回はコースの途中にマットを置いて、動きを多様にしたいと考えています。

また、学習のルールや態度を学ばせる上でも有効な教材であると言えます。順番の待ち方や友だちへの声のかけ方、全力を出す習慣等、1年生の最初の時期にこそ、身につけさせたい価値観であり習慣であると考えます。

もちろん今回は1年生で扱いますが、目の前の学習集団の実態把握にも適していますので、どの学年でも取り組む意味はあると思います。

#### ○よじのぼり (マット運動)

「よじのぼり」は、壁に背を向け、マットに両手を着き、両足で壁をよじのぼりながら逆さの姿勢になる運動です。逆立ちにつながる運動の第一歩と言えます。逆立ちの運動は「よじのぼり→頭つき逆立ち→壁逆立ち→大の字まわり→側方倒立回転→お手伝いハンドスプリング→前方倒立回転」と着実に力をつけていくことで系統的に発展していく運動です。だからこそ、1年生から取り組み、「腕支持、逆さ感覚、体幹の締め」を身につけさせていくことが大切であると考えています。



5. 本時の指導

【4年生】

(1) 目標

- ・ラリーが続くように、返球しやすいボールを考えて、意識して打つ。
- ・跳ぶ回数を増やすポイントは何かを考え、自分の考えを伝えながら活動する。
- ・運動の方法が分かり、ルールを守って楽しんで運動することができる。

(2) 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>○なかよしとび</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2チームに分かれて取り組む。</li> <li>・実際に取り組む。</li> <li>・回し手は順番に交代する。</li> <li>・新記録が出たら、回していた児童が黒板に記録を書く。</li> <li>・ある程度取り組ませたら集合する。</li> <li>・難しいと感じたところや、上手いかなかったことを出し合う。</li> <li>・ポイントを意識して、もう一度チャレンジする。</li> </ul> <p>○関所ジャンケン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4列横隊に広がり、コースの途中にマットを置き、前転を加えたおりかえしの運動（リレー）を行う。 (かけ足・スキップ・片足ケンケン)</li> <li>・マットを移動させ、関所ジャンケンを行う。 (くま走り・うさぎとび・あざらし・くも歩き etc)</li> <li>・メドレーリレーで関所ジャンケンを行う。</li> </ul> <p>※関所ジャンケン</p> <p>各班で関所の児童を1人決め、隣の班の折り返し場所に移動する。折り返す際に関所の児童とジャンケンをする。勝敗に応じて折り返しの方法を変える。</p> <p>○つづけるくん (ハンドテニス)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンバウンドで山なりのパスをし合い、何回続くかを数える。</li> <li>・打ち方は、グーでも、パーでも、両手でも可。</li> <li>・手で持って返さないようにする。</li> <li>・2人1組で行い、班での合計点を出す。</li> <li>・各班の記録を合計し、クラス得点を出す。</li> </ul> <p>○集合・評価・挨拶</p>	<p>○どんな運動に取り組むのかを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回し手は固定しないこと。3回失敗するか、チームの記録を更新したら回し手を交代する。</li> </ul> <p>○運動について気がついたことを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出遅れてしまう→かけ声をかける。</li> <li>・跳ぶ場所がわからない→ラインテープを目印に。</li> <li>・順番が間に合わない→素早くスタート位置に。</li> </ul> <p>○改善点や意識するポイントをおさえたところで、もう一度取り組ませる。</p> <p>※走って、跳んで、逃げる。外側の人が急ぐ。手を離さない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動き、態度、応援の良い児童を積極的に褒める。</li> <li>・ルールを理解させる。</li> <li>・最後まで全力で取り組めるように声がけをする。</li> <li>・ケンカになりそうな時はジャンケン。</li> <li>・素早く、安全に片付けさせる。</li> </ul> <p>・カラーコーンとバーで学習の場を準備する。</p> <p>○つづけるくんの方法を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見本を見せながら説明する。</li> <li>・時間でペアが交代することを伝える。</li> </ul> <p>○積極的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動き、態度、かかわり合いの良い児童を褒める。</li> <li>・動きがぎこちない場合はアドバイスをを行う。</li> </ul> <p>○途中集合し、運動のポイントを確認する。</p> <p>※打つ瞬間、手首に力を入れる。 ※思いやりをもつ。</p>

【1年生】

(1) 目標

- ・それぞれの運動の方法を理解して取り組むことができる。
- ・友だちのつまずきを見つけて、アドバイスをしたり、お手伝いをしたりすることができる。
- ・声援を送ったりアドバイスをしたりお手伝いをしたりしながら、全力で活動することができる。

(2) 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>○ゆうびんやさん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各班に一本、長なわを準備する。</li> <li>・「ゆうびんやさん」を歌いながら跳ばせる。</li> <li>・決まった数が跳べたら帽子の色を変える。</li> <li>・全員が帽子の色が変わることを目指す。</li> </ul> <p>○おりかえしの運動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4列横隊に広がり、スキップや手足走り、手押し車などで往復する。</li> <li>・コースの途中にマットを置き、おりかえし運動の中に前転などを加える。</li> <li>・手押し車を行う。</li> </ul> <p>○よじのぼり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動について確認する。</li> </ul> <p><b>「手を着いて！よじよじ、よじよじ、よじのぼり！」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マットを準備し、班ごとに取り組ませる。</li> <li>・10秒間、姿勢を維持できたら白帽子。</li> </ul> <p>○集合・評価・挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やり方を確認する。</li> </ul> <p>○なわの持ち方、回し方を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なわで手の甲を巻くようにして持つ。</li> <li>・肩から大きく回して、膝でリズムをつかませる。</li> </ul> <p>○活動が滞っている班に声をかけたり、できた児童をミニ先生にして教えさせたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テンポよく運動させる。</li> <li>・動き、態度、応援の良い児童を積極的に褒める。</li> <li>・動きがぎこちない場合はアドバイスを行う。</li> <li>・安全面に注意しながら活動を進める。</li> <li>・待っている児童の位置など、安全面に注意しながら進める。</li> <li>・手押し車の様子から次の活動に繋げる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が見えるように集合させる。</li> <li>・どんな運動に取り組むのかを理解させる。</li> <li>・目線、肘の突っ張り、足首に注目させる。</li> <li>・元気よく数を数えさせる。</li> <li>・必要に応じて、お手伝いをさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を振り返り、次への意欲づけをする。</li> </ul>

## 体育科学習指導案

豊中市立東豊中小学校

指導者 山本 理絵子

1. 日 時 平成 30 年 (2018 年) 2 月 27 日 (火) 第 5 限 (13 : 40 ~14 : 25 )
2. 場 所 豊中市立東豊中小学校 体育館
3. 学年・組 第 1 学年 1 組 26 名 (男子 14 名、女子 12 名)
4. 単 元 名 マットを使った運動遊び (よじのぼりから頭つき壁逆立ち)  
多様な動きを作る運動遊び (なわとび)
5. 単 元 目 標 マットを使った運動遊び…安全に気をつけ、きまりを守って仲良く運動できる。  
自分の体を手で支えることができる。  
友だちのよい動きを見つけることができる。  
多様な動きを作る運動遊び…タイミングを合わせて、縄に入ることができる。  
縄を回すことができる。  
縄に入るタイミングに気づくことができる。

### 6. 本時の展開

時間	授業内容	指導上の留意点
5 分	挨拶 体ほぐし・ねことねずみ・おりかえしの運動	
20 分	頭つき壁逆立ちの練習 ・前時まで (足を伸ばさない逆立ちの動きの振り返りをする) ・本時の課題を提示する。 ・前時の運動で動きの安定している児童に手本をしてもらう。 ・安全と補助の確認をする。 ・グループごとに練習する。	○手と頭の位置を確認させる。 ○前時の動きと違うところを確認させる。 ○補助の方法を確認させる。 →足が上がらない児童は、足を上げるところから補助をする。
10 分	大波小波 ・グループに分かれて、大波小波の練習をする。(縄を回す児童は、交代で全員が経験するようにする。) ・縄に入るタイミングが上手なグループを見て、どのタイミングで入るのがいいかを考える。 ・グループでタイミングよく入る練習をする。  ・1 分間に何回できるかをグループで数えて、記入する。	○縄に入るタイミングを確認させる。 →縄が遠くにいった時に縄に入って近づいてきたら跳ぶ。入りにくい児童にはグループで声をかけるように指示する。 →両足で跳ぶ、真ん中で跳ぶことを確認する。 ○グループで声を合わせて数えさせる。
10 分	片付け、挨拶	

からだづくり研修会

## 指導案編

筑波大学附属小学校 齋藤 直人

1. 児童 豊中市立東豊中小学校 2 年 1 組（小西学級）26 名（男子 11 名・女子 15 名）  
5 年 1 組（田辺学級）33 名（男子 16 名・女子 17 名）

### 2. 本時で取り上げる運動教材

2 年生 とおりぬけ→0 の字とび（からだづくり） いろいろかべ逆立ち→川わたり（マット運動）

5 年生 かぶり回し→むかえ回し（からだづくり） お手伝いかべ逆立ち→側方倒立回転（マット運動）

### 3. 本日の授業のねらい

東豊中小学校での研修は 2 回目となります。『研究推進校としての取り組みの成果＝日々の体育授業の充実』となるような研究であってほしいと思っています。そうなるためには、前回も書きましたが、どの先生でも真似できるような、真似したくなるような「シンプルだけど、子どもが伸びる、楽しい」体育授業が大切です。

今回は、この授業イメージと「つながり（系統的な指導）」をポイントに研修を進めたいと思います。

前回同様、教材は「長なわとび」と「マット運動」です。1 年生の山本先生、2 年生と 5 年生の私の授業をもとに、「シンプル、伸びる、楽しい」「系統的な」体育授業のあり方について探っていきたいと思います。

### 4. 運動教材について

#### 【2 年生】

○とおおりぬけ→0 の字とび（からだづくり）

とおおりぬけは、回旋しているなわに入り、なわに当たらないように走り抜ける運動です。回し方は、上からなわが自分に近づいてくる「かぶり回し」で行います。うまく入れる子が手を繋いで一緒に走り抜けたり、背中を押してタイミングを教えたり、友だち同士が関わって学習をさせます。

とおおりぬけができることを確認した上で、0 の字とびの学習に入ります。「走って→跳んで→逃げる」を意識させます。縄に対して、手前や奥で跳んでしまう児童が出てくるのが予想されるので、どこで跳べばいいのかを思考させます。その際にラインなどの目安があると、ポイントを発見しやすく、視覚的に意識できるので、跳びやすくなります。

運動量・活動量を確保するために、10 人程度のグループごとに取り組みさせます。学習が進んでいけば、時間内での跳んだ回数や連続回数など、グループの最高得点を合計してクラス得点とし、記録の更新に向けて取り組みせ、意欲を継続させることができます。

### ○いろいろかべ逆立ち→川わたり（マット運動）

いろいろかべ逆立ちでは、よじのぼり逆立ち、頭つき逆立ち、頭つき逆立ち→引っ張り逆立ち、お手伝い壁逆立ちなどの中から、実態を把握して取り組む教材を教師側で選びます。全体的に逆さ感覚が十分に高まっていれば、自分の感覚に合った課題を設定し、挑戦させることも考えられます。その際に、必要に応じてお手伝いやアドバイスをし、「かかわりあい」ながら、技能や感覚を高めていくように促します。

本時では「肘を突っ張って伸ばす」「手と手の間を見る」といった逆立ち運動のポイントを確認します。その共通の視点（知識）をもたせた上で、どこが良くて、どこを直せばいいのかを相互に伝え合うようにしながら技能を高めていきます。

この逆立ちと関連するのが側転であり、その側転の初期段階が川わたりです。川わたりは両手で体を支えながら移動する運動であり、一瞬ですが逆さの姿勢になります。かべ逆立ちからの系統と考えます。ただし、手を順番にマットに着くので、左手が先か、右手が先かを考える必要があります。自分のやりやすい順番を見つけさせたいと考えています。一番最初は手を先に着かせて、自分の体に近い方の手がどちらか、分かるようにさせます。

### 【5年生】

#### ○かぶり回し8の字とび→むかえ回し（からだづくり）

長なわの「かぶり回し8の字とび」に慣れてきた段階で、そこで身につけた知識や技能、感覚を生かしたり、違いを意識したりしながら学習していきます。

なわが上から自分に近づいてくる“かぶり回し”が一般的で、この学習のみを扱うことも少なくありません。「むかえ回しとび」では、なわが下から自分に近づいてきます。つまり、これまでと反対の回し方になります。回し方が反対になるだけですが、子どもにとっては難しい課題です。しかし、学習経験に差が出にくく、学習のスタートラインが揃い、共通の課題意識をもちやすくなります。

本時で、初めて“むかえ回しとび”に取り組ませるので、混乱することが予測されます。その中で、長なわを得意としている児童もいれば、苦手意識を持っている児童もいます。また、跳べる児童の中には、跳ぶためのコツを伝えることができる児童もいれば、感覚で跳べていて上手に伝えることができない児童もいます。そのような児童たちが「むかえ回しとびがとべるようになる！」「たくさんの回数を跳べるようになる！」という共通の課題をもって、学習に取り組みます。

#### ○お手伝いかべ逆立ち→側方倒立回転（マット運動）

2年生の学習同様に、よじのぼり逆立ち、頭つき逆立ち、頭つき逆立ち→引っ張り逆立ち、お手伝い壁逆立ちなどの中から実態を把握して取り組む教材を教師側で選びます。5年生ですので、立った姿勢からのかべ逆立ちを目標にしていきます。

ここでは、一人でチャレンジして失敗する経験ではなく、仲間の力を借りて成功体験を重ねながら、感覚を高めます。

また、側方倒立回転は右手、左手の順番を意識させることはもちろん、視線がどこを向いているかを相互に確認させることを軸に、肘や膝の伸びた大きな側方倒立回転に近づけていきます。

5. 本時の指導

【2年生】

(1) 目標

- 0の字とびで、どこで跳んだらいいのかが分かり、実際に縄を跳んで出ることができる。
- 川わたりで、どちらの手を先に着くのがやりやすいのか、どこを見ながら行うのがよいのかを考えながら学習することができる。
- 初めて取り組む学習に対して、友だちと仲良く安全に取り組むことができる。

(2) 展開 ※ A…難易度が低めの取組み B…(Aよりも)やや難易度が高い取組み C…予想される児童の反応

学 習 活 動	活動を支える教師の役割
<p>○とおりぬけ→0の字とび</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2チームに分かれて、とおりぬけを行う。</li> <li>・回し手は順番に交代する。</li> <li>・集合させて0の字とびについて説明を聞く。</li> <li>・ある程度取り組ませたら集合する。</li> <li>・難しいと感じたところや、上手くいかなかったことを出し合う。</li> </ul> <p>C：「いつ跳んだらいいのかわからない。」            C：「どこで跳んだらいいのかわからない。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一度活動する。</li> <li>・どんなことに気がつけたのかを伝え合う。</li> </ul> <p>C：「線の上で跳んだ」「前からくる縄をよく見た」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイントを意識して、もう一度チャレンジする。</li> </ul> <p>○いろいろかべ逆立ち→川わたり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6～7グループで活動させる。</li> <li>・よじのぼり逆立ちを行う。</li> </ul> <p>A：よじのぼり逆立ち→よじのぼりじゃんけん            B：頭つき逆立ち→引っ張り逆立ち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川わたりについて説明を聞く。</li> <li>・マットを横にして川わたりを行う。(行き帰り)</li> <li>・左右のどちらの手が自分の体に近い方がやりやすいかを考える。</li> <li>・どこを見ながら行うのがいいかを考える。</li> <li>・繰り返し取り組みながら、感覚を高めていく。</li> <li>・お尻を着かなければOK！</li> </ul> <p>○集合・評価・挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“とおりぬけ”に取り組ませ、実態を把握する。</li> <li>・回し手が固定されないように声をかける。</li> <li>・取り組む活動について説明する。</li> <li>・縄のスピードが速くならないようにさせる。</li> <li>・運動について気がついたことを共有する。</li> <li>・困ってしまうことを共有し、そこに意識をもたせて活動させる。</li> <li>・改善点や意識するポイントをおさえたところで、もう一度取り組ませる。</li> <li>・いつ跳ぶのか→前からくる縄をよく見て跳ぶ。</li> <li>・跳ぶ場所がわからない→ラインテープを目印に。</li> <li>・改善点や意識するポイントをおさえたところで、もう一度取り組ませる。 ※走って、跳んで、逃げる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に活動できる場所を指示し、スムーズに学習に取り組ませる。</li> <li>・よじのぼり逆立ちで実態を把握する。</li> <li>・実態に応じて取り組む教材を変える。</li> <li>・取り組む活動について説明をする。</li> <li>・手を先に着かせて、体を支えやすくする。</li> <li>・一斉に同じ方法で取り組ませて、右手と左手を意識しやすくさせる。</li> <li>・全体の理解度を確認しつつ、どこを見ながら川わたりをしているのか考えさせる。</li> <li>・相互の評価は、「お尻を着かずに着地できるか」「どこを見ているか」の2つのポイントで判断させる。</li> </ul>

【5年生】

(1) 目標

- むかえ回しの入るタイミングが分かり、スムーズに跳んで抜けることができる。
- 目線と着地を意識しながら、かっこいい側方倒立回転（大の字まわり）の動きについて考え、伝えることができる。
- 自分では分からないお互いの動きについてアドバイスをしながら、助け合って学習することができる。

(2) 展開※ A…難易度が低めの取組み B…(Aよりも)やや難易度が高い取組み C…予想される児童の反応

学 習 活 動	活動を支える教師の役割
<p>○かぶり回し8の字とび→むかえ回し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10人程度のグループでかぶり回し8の字とびを行う。</li> <li>・むかえ回し8の字とびを行う。</li> </ul> <p>C：「簡単だと思ったけど、難しい」            C：「いつ入ったらいいのかわからない」            C：「出るときに、引っかかってしまう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは、入るタイミングを考え、伝え合う。</li> <li>・回し手を変えながら繰り返し挑戦する。</li> </ul> <p>C：「なわが通り過ぎたら入ってみたよ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・むかえ回し8の字とびに再挑戦する。</li> </ul> <p>○お手伝いかべ逆立ち→側方倒立回転</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お手伝いかべ逆立ちについて確認する。</li> <li>・順番にお手伝いかべ逆立ちに取り組む。</li> <li>・A：安定してできるようにお手伝いを促す。</li> <li>・B：お手伝いがなくてもできるように促す。</li> <li>・友だち同士が関わって取り組む。</li> <li>・体の向きが横の大の字回りで、自分が先に着く手を決める。</li> <li>・大の字回りでも、正面から入る側方倒立回転でもいいので、自分に合った課題に取り組む。</li> <li>・目線を相互に確認させる。</li> <li>・お尻を着かずに着地する。</li> <li>・それ以外でも気がつくことがあれば伝え合う。</li> </ul> <p>C：「膝が伸びている方がいいよ！」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイスし合いながら取り組む。</li> </ul> <p>○集合・評価・挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“かぶり回し8の字とび”が1分間で何回跳べるかに挑戦させ、記録する。</li> <li>・なわを反対に回すことを提案する。</li> <li>・挑戦してみてどうだったのか振り返りをさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入るタイミングを伝え合うように促す。</li> <li>・回し手が固定されないように声をかける。</li> <li>・感覚をつかめてきている児童や班を探す。</li> <li>・いつ入れば良さそうなのかを共有する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お手伝いありのかべ逆立ちに取り組ませる。</li> <li>・全体を見ながら実態を把握する。</li> <li>・実態に応じて取り組む教材を変える。</li> <li>・「肘を突っ張って伸ばす」「手と手の間を見る」については意識をさせ、声をかける。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先にマットに着く手を確認する。</li> <li>・目線がマットにいつているか確認し合う。</li> <li>・着地が安定するように声をかける。</li> <li>・困っている児童の補助をする。</li> <li>・気づいたことを伝えるように促す。</li> </ul>

## 体育科学習指導案

豊中市立東豊中小学校

指導者 山本 理絵子

1. 日時 平成30年(2018年)5月23日(水)5限(13:20～14:05)
2. 場所 豊中市立東豊中小学校 体育館
3. 学年・組 第3学年1組 26名(男子12名、女子14名)
4. 単元名 段ゴールゲーム
5. 本時の目標 態…運動やゲームに進んで取り組み、安全に気をつけて活動できる。  
技…パスを考えてつなぐことができる。  
思・判…味方との距離や位置によって、どんなパスを出したらよいかを考えることができる。

### 6. 本時の展開

時間	授業内容	指導上の留意点
10分	体ほぐし ①ケンケンじゃんけん②おりかえしの運動	○競争ではなく、動きが上手な子に声をかける。
10分	ボール運動 ・パスゲーム (30秒の間にペアで何回パスができるか。) ・ナンバリングパス (チーム内で互いの番号を呼び合いながらパスをする。)	○ボールの投げ方、受け方が上手なペアを紹介する。 ○しっかり声を出しながらパスができているか、声かけをする。
20分	段ゴールゲーム ・ゲームのルールを全体で確認する。 ・今日のめあてを共有し、これまでどんなパスをしてきたかを考える。 ・コートを2面使い、ゲームを行う。 ・試合を振り返り、よかったパスがあれば発表する。	○前回の試合でルールがあやふやな部分があれば補足する。 ○今までの試合で行ったパスを確認する。 ○試合を見ているチームに、パスの仕方に注目して見学させる。上手な児童がいれば、見つけさせる。 ○味方が近い時と遠い時で、パスを使い分けるとよいことをおさえる。
5分	片付け、挨拶	

#### <段ゴールゲームのルール>

- ①攻撃4人、守備2人 ②ボールを当てて、円の中の段ボールを倒すか落とすとゴール
- ③全部倒したらボーナスP(+3P) ④ドリブルなし ⑤円の中には攻撃も守備も入れない
- ⑥守備はボール保持者のボールや体には触れない
- ⑦ゴールする、パスをとられる、ボールが外に出る→リスタート
- ⑧最初は全員白帽子で、ゴールしたら赤帽子



## 体育科学習指導案

豊中市立東豊中小学校

指導者 小西みのり

1. 日 時 平成 30 年（2018 年）11 月 12 日（月）
2. 場 所 豊中市立東豊中小学校 体育館
3. 学年・組 第 6 学年 1 組 32 名（男子 15 名、女子 17 名）
4. 単 元 名 ボール運動（ソフトバレーボール）
5. 本時の目標
  - ・体を動かしながらボールをつなぐことができる。
  - ・声をかけながら、チームで協力して、主体的に取り組むことができる。

### 6. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
5 分	①なわとびをする。（8 の字） ・ 3 グループに分かれて回数を数える。 ・ クラス全体で何回跳べたかを記録する。	・ みんなが跳ぶ、回す両方をできるように声かけをする。
5 分	②学習内容を確認する。 ・ ソフトバレーボールの説明を聞く。 ・ 簡単なルールについて知る。	・ 最終的に試合ができるように、トス・アタック・レシーブなどの練習を行っていくことを伝える。
5 分	③ 2 人でトス練習をする。 ・ 1 人が投げる、1 人がトス。	・ 声かけ、ボールの打ち方、ボールの取り方、体の動かし方などを思考することを伝える。
10 分	④各チームでボールをつなぐ練習をする。 ・ チームごとに円になり、投げる→トス→キャッチ、投げる→トス→…の順にボールをつないでいく。 ・ まず練習を行い、次に何回つなげられたかの回数を競う。	・ 「つなげる」ことを重視させる。ワンバウンドも可とする。 ・ どんなボールなら相手を取りやすいかを考えさせる。キャッチはおでこの上でさせる。 ・ 相手を取りやすい返球をしている児童、声かけをしている児童を称賛する。 ・ 輪の大きさについては教師側が指示する。
15 分	⑤ 2 チーム味方型でボールをつなぐ練習をする。 ・ 2 チーム ver.で各チーム 3 人ずつのローテーションで行う。 ・ まず練習を行い、次に何回つなげられるかの回数を競う。	・ 相手の取りやすい返球はどんなものか、考えさせる。 ・ ボールを返す時には、体をボールの下に持っていきように声かけをする。できている児童を取り上げる。
5 分	⑥ふり返り、片づけをする。	次回につながる振り返りをさせる。

## 体育科学習指導案

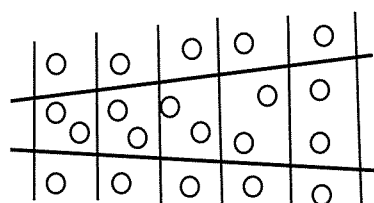
豊中市立東豊中小学校

指導者 倉脇 祥

1. 日 時 平成 31 年 (2019 年) 2 月 1 日 (金)
2. 場 所 豊中市立東豊中小学校 体育館
3. 学年・組 第 1 学年 1 組 26 名 (男子 11 名、女子 15 名)
4. 単 元 名 なげよう!
5. 単元目標
  - ・投げることを楽しむことができる。(関心・意欲・態度)
  - ・狙ったところにボールを投げる。(知識・技能)
  - ・ボールを操作できる位置に動く。(思考・判断・表現)
  - ・ボールを投げるときに行った工夫を動作や言葉で表現できる。(思考・判断・表現)
6. 本時の目標
  - ・投げることを楽しむことができる。
  - ・狙ったところにボールを投げる。
7. 本時の展開 (4/5)

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導 入 10 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーミングアップ</li> <li>→ボールを上に向けてキャッチ。</li> <li>下にバウンドさせてキャッチ。</li> <li>体の周りをまわす。</li> <li>二人一組で頭の上とまたの下を通してわたす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールの下に体を入れることができる。</li> <li>・ボールを真下につくことができる。</li> <li>・ボールに合わせて体を動かすことができる。</li> <li>など、適宜ポイントを確認させる。</li> </ul>
展 開 30 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投げるときのポイントの確認。</li> <li>・二人制ドッジのルールの確認。</li> <li>・二人制ドッジ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顔の横から投げる。足を一步出す。目の位置など今まで児童から出た言葉でポイントを確認する。</li> <li>・全員が楽しんで投げるできているか。</li> <li>・あらかじめコートของกลุ่มを決めておく。</li> <li>・投げるときに線を足でまたぐできているか。</li> <li>・児童に当てた回数を覚えさせる。</li> </ul>
ま と め 5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上手にできたことを発表する</li> <li>・体育カードに振り返りを書く</li> <li>・整理体操</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足を一步出して投げるできたか確認する。</li> <li>・体育カードに、投げるときのポイントについて振り返りを書く。</li> </ul>

※二人制ドッジ



### ルール

- ・時間は 30 秒
- ・中の方は逃げるかキャッチする
- ・外の方は中の方を狙って 30 秒投げ続ける
- ・時間で攻守交替する
- ・時間終了後、当てた回数が多い二人は右のコートへ、回数が少ない二人は左のコートへ移動する

# 東豊中小学校 体育指導年間計画 (低学年)

## 1年 (102時間)

学期	1学期 (38時間)			2学期 (45時間)			3学期 (24時間)																																												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																							
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38													
領域・種目	102			かけっこ マット運動 50m走			フール 水慣れ・け伸び リズムダンス			リズムダンス			ドリッジボール			ボールあそび ドッジボール			ボール遊び			ドッジボール			ボール遊び			ドリッジボール			ボール遊び			ドッジボール			ボール遊び			ドッジボール			ボール遊び			ドッジボール			ボール遊び		

## 2年 (105時間)

学期	1学期 (38時間)			2学期 (45時間)			3学期 (24時間)																																			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																														
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38				
領域・種目	102			体づくり運動 走の運動遊び 水遊び			水遊び			体づくり運動 走の運動遊び 水遊び			50m走			ドリッジボール			ボールあそび ドッジボール			ボール遊び			ドリッジボール			ボール遊び			ドリッジボール			ボール遊び			ドリッジボール			ボール遊び		

## 3年 (105時間)

学期	1学期 (38時間)			2学期 (45時間)			3学期 (24時間)																																			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																														
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38				
領域・種目	102			体づくり運動 器械運動 走・跳の運動 水泳運動 ゲーム 表現運動 保健			体づくり運動 走の運動遊び 水遊び 水遊び			体づくり運動 走の運動遊び 水遊び			50m、リレー			ドリッジボール			ドリッジボール			ドリッジボール			ドリッジボール			ドリッジボール			ドリッジボール			ドリッジボール			ドリッジボール			ドリッジボール		

# 東豊中小学校 体育指導年間計画(高学年)

## 4年(105時間)

学期	1学期(36時間)					2学期(45時間)					3学期(24時間)																											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																										
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
領域・種目	なわとび												なわとび																									
	体づくり運動												体づくり運動																									
	器械運動												器械運動																									
	走・跳の運動												走・跳の運動																									
	水泳運動												水泳																									
	ゲーム												対戦中																									
	表現運動												ダンス・民舞																									
	保健												大きくなくてきたわたし →																									
													思春期にあらわれる変化 →																									
													よりよく育つための生活 →																									

## 5年(90時間)

学期	1学期(33時間)					2学期(43時間)					3学期(14時間)																											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																										
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
領域・種目	体づくり運動												体づくり運動																									
	器械運動												器械運動																									
	陸上運動												陸上運動																									
	水泳運動												水泳																									
	ボール運動												ソフトバレーボール、サッカー、ベースボールゲーム																									
	表現運動												組体操																									
	保健												心の発達																									
													けがの防止																									
													病気の予防																									

## 6年(90時間)

学期	1学期(33時間)					2学期(43時間)					3学期(14時間)																											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																										
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
領域・種目	体づくり運動												体づくり運動																									
	器械運動												器械運動																									
	陸上運動												陸上運動																									
	水泳運動												水泳																									
	ボール運動												ソフトバレーボール、サッカー、バスケットボール																									
	表現運動												組体操																									
	保健												感染症																									
													生活習慣病、喫煙																									
													創作リズムなわとび																									

## あ と が き

東豊中小学校では、豊中市教育委員会の委嘱をうけ、平成29年度（2017年度）より、『からだづくり研究推進校』として取り組みをすすめてきました。一年目は、まず児童の基本的な生活習慣や運動能力を把握するため、体力テストの結果の分析をしました。また優れた実践から学ぶために、研修にも積極的に参加しました。そして、筑波大学附属小学校より齋藤先生をゲストティーチャーにお迎えし、研究授業・公開授業にも取り組み、スマイルバレーボールやハードル、短なわなど必要な用具を充実させたりしてきました。

今年度は、「取り組みたい、チャレンジしたい、と心も体も考動できる子どもを育てる環境づくり」を目指して、低学年、中学年、高学年でそれぞれ公開授業を行い、発達段階に応じて効果的な体育の授業について研究を深める中で、系統立てて指導していくことの大切さを確認し合いました。

昨年度からの取り組みが効果をあげてきた項目もあれば、まだ課題のある項目も残っており、今後も継続して取り組んでいくことが必要です。これからも職員一同、力を合わせ、研究を積み重ねて参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

教頭 田辺 譲

### 平成 29 年度（2017 年度）研究同人

平島健二	山本昌幸	山本理絵子	青野紀子	北村建一	小西みのり
船越有紀子	倉脇祥	小田みのり	西智子	山本康子	細河容子
浅井智子	田辺譲	今西将人	大橋創	森さやか	前川保枝
長谷坂綾乃	高畑周平	岩田光子	濱田典子	三木裕子	吉岡多恵子
平澤礼子	福島幸代	佐竹真美	水元由貴	鳴海眞祐美	萬東

### 平成 30 年度（2018 年度）研究同人

平島健二	田辺譲	倉脇祥	細河容子	浅井智子	北村建一
伊佐敷健二	小田みのり	山本理絵子	土居将真	森さやか	山本康子
船越有紀子	大橋創	東宜潔	青野紀子	小西みのり	今西将人
森川紀子	長谷坂綾乃	高畑周平	岩田光子	濱田典子	三木裕子
吉岡多恵子	平澤礼子	福島幸代	藤田正己	中村めぐ美	水元由貴
鳴海眞祐美	野島修				

